

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書】

都道府県名	福井県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	明新小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	4	4	3	3	3	0	21	29
児童数	124	122	134	117	109	98	0	704	

研究の概要

1. 研究主題

互いに認め合い、ともに高め合う子の育成
 —— 個に応じた指導の推進 ——

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

1～3年 算数科（TT）、 3～6年 算数科（少人数指導）
 理解度に差が生じやすい教科であるため

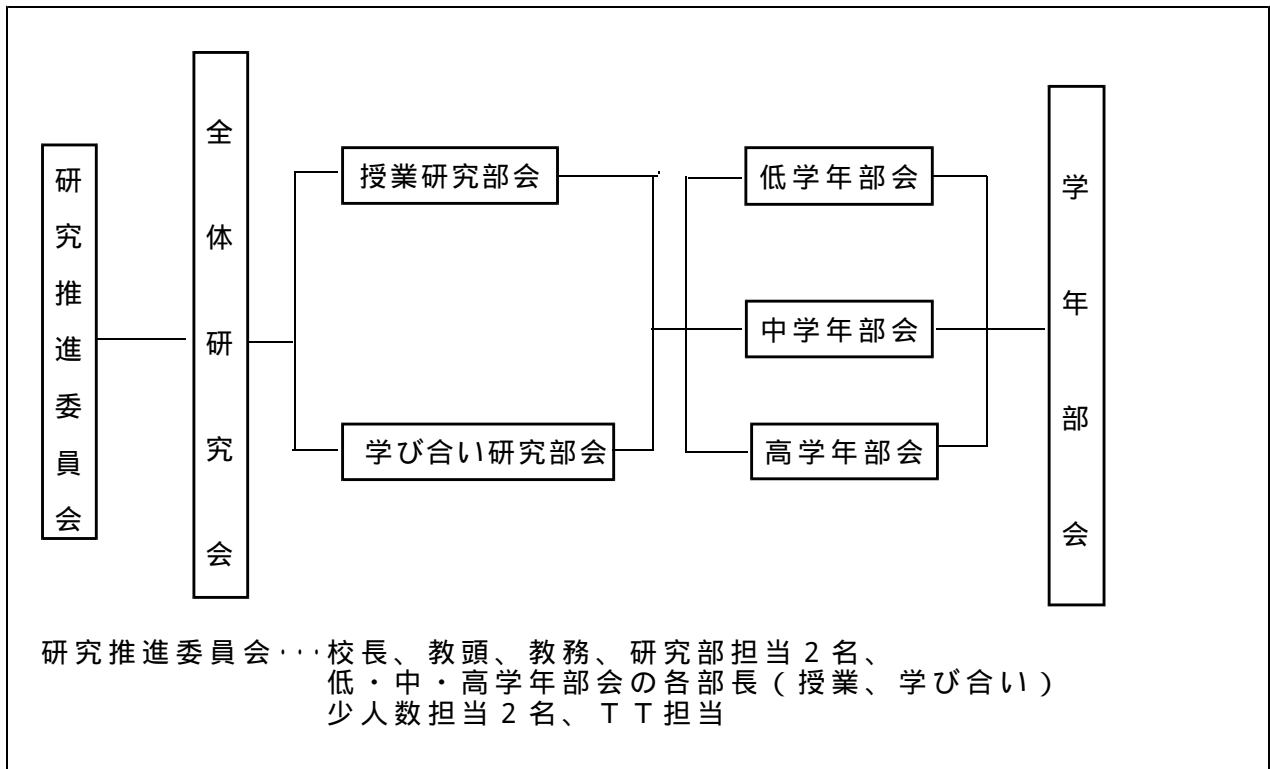
(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p style="text-align: center;">テーマ 互いに認め合い、ともに高め合う子の育成 —— 個に応じた指導の推進 ——</p> <p>仮説 教師が子供一人一人の力や興味・関心に応じた指導を工夫・推進すれば、子供たちは、学習の対象に主体的に働きかけ、互いの立場や思いを共感的に受け止めるだろう。その中で、共有した目標を持ち、その目標に向かって価値判断・意志決定を繰り返しながら、豊かな心と豊かな学力が育っていくであろう。</p> <p>研究の内容・方法 基礎・基本を確実に身につける個に応じた指導の工夫（算数科において） ア 個に応じた指導を実現するための学習形態、方法の工夫 ……TT指導、少人数指導 イ 子供の興味・関心を高める課題設定、教材・教具の工夫 ……子供の実態に応じた興味・関心を高める課題の設定や発展的・補足的な学習の実施 ウ 朝学習の実施 ……算数科における基礎・基本の徹底、つまずきの発見と対策による学習意欲の向上 エ 放課後学習チューターの活用 ……きめ細かな指導を充実させるため、教育実習生を「放課後学習チューター」として活用</p> <p>自ら考え学ぶ力を身につけるための、体験的・問題解決的な学習活動の工夫 ア 多様な学び方による実践力のある学ぶ力の育成 イ 教科・領域との関連を考えた活動や総合的な学習</p> <p>豊かな体験を取り入れた活動の工夫 ア 地域の自然・社会・人々との出会いやふれあいを大切にし、学校・家庭・地域がより深く結びつくための活動（ゲストティーチャーや学習支援ボランティアの積極的な活用）</p>
--------	---

	子供が互いの人権を大切にする学習集団の育成 ア 子供どうしがかかわり合う班づくり イ 学習規律作り（学級の子供たち相互の利益を守るための規律） ウ リーダーづくり
--	--

平成16年度	<p style="text-align: center;">テーマ 互いに認め合い、ともに高め合う子の育成 - 個に応じた指導の推進 -</p> <p>研究の見通し 子供一人一人の力や興味・関心に応じた指導を工夫・推進することによって、子供達は学習の対象に主体的に働きかけ、互いの立場や思いを共感的に受け止めるだろう。その中で、共有した目標を持ち、その目標に向かって価値判断・意志決定を繰り返しながら、豊かな心と豊かな学力が育っていくであろう。</p> <p>研究の内容・方法 基礎・基本を確実に身に付ける個に応じた指導の工夫（算数科において）自ら考え学ぶ力を身につけるための、体験的・問題解決的な学習活動の工夫 豊かな体験を取り入れた活動の工夫（学習支援ボランティアやゲストティーチャーの活用の充実） 子供が互いの人権を大切にする学習集団の育成</p>
--------	--

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

基礎・基本を確実に身につける個に応じた指導の工夫（算数科において）

- ・子供の算数学習への意欲が一層高まり、学習内容の理解が進んだ。
- ・一斉授業では、埋もれがちだった子供一人一人のきめ細かな指導・支援ができるようになったため、苦手意識がある子も進んで学習するようになった。
- ・複数の教師で指導するため、教材や指導方法、児童の様子について話し合う機会が増え、教材研究や児童理解が深まった。
- ・1つの学級を2つに分けるというやり方や、コースを子供自身で選択できることで、少人数学習が違和感なく子供たちに受け入れられた。さらに学校便りなどによる保護者への発信により、少人数学習についての保護者の理解も得られた。

自ら考え学ぶ力を身に付けるための、体験的・問題解決的な学習活動の工夫

- ・学習に対する「やってみよう」という意欲の高まりが見られた。
- ・多様な学び方を取り入れることにより、取材やパソコン活用などの情報活用能力や、まとめや発表などの表現力が増してきた。

豊かな体験を取り入れた活動の工夫

- ・学習支援ボランティアやゲストティーチャーを積極的に導入することで、地域や社会の様々な人たちと出会い、視野の広い学習を展開することができた。

子供が互いの人権を大切にする学習集団の育成

- ・子供どうしが、助け合ったり教え合ったり励まし合ったりして、かかわり合いながら活動する姿が見られた。
- ・習熟度別少人数指導のコース分けにおいても、子供たちが一人一人を認め合うことができたため、差別意識を持つことなく学習を進めることができた。

2. 今後の課題

学力向上の一層の推進を図るための指導体制の検討と見直し
評価基準の明確化と指導につながる評価の工夫についての研究
個に応じた指導を進めるための補充的学習・発展的な学習の教材開発

学力等把握のための学校としての取組

算数の学習についてのアンケート（年2回実施）の比較・分析

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

保護者向け授業参観の実施（毎月1回）
研究授業公開（6/27）
校区内全家庭への学校便りの配布
学力向上フロンティア事業地区協議会での実践報告（H.16.2/10）

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校

【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上

【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他

【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無